

2011 高校 県総体

第6日

県高校総合体育大会第6日は1日、県内各地で6競技を行った。ハンドボール男子は興南が7年連続23度目の頂点に立ち、女子は那覇西が2年連続7度目の栄冠に輝いた。ソフトボールは男子の嘉手納が2年連続2度目の制覇、女子は読谷が2年連続13度目の優勝を果たした。陸上の女子円盤投げは知念莉子(那覇西)が43斤46で連覇し、砲丸投げと合わせて2冠を達成した。ヨットの男子FJ級は上原亮・田場優平(知念)が制した。大会第7日の2日は陸上の最終日、サッカー、テニスの個人戦決勝などの3競技を行う予定。

那覇西 流れ乗り連覇



那覇西 陽明 後半、ジャンピングシュートを決める那覇西の下地聖良(1日、沖縄市体育館(名嘉真朝英撮影))

県高校総体 2011

下地連続得点 反撃の起点

○：「総体独特の雰囲気の中、硬くなっていた」という女子那覇西。試合序盤、「10分間は我慢しよう」と下地保監督の指示が飛んだ。3-5でリードされた場面。エースの下地聖良は「競っていたし、決めたかった。自分がやらなければと思った」。相手ディフェンスの空白エリアを突き、連続で4、5、6点目を奪うと、ここから試合の流れが変わった。

「ほかの選手も(攻撃で前に)上がっていくのを見て、流れがきたと感じた」と下地。これと同時に、徐々に本来の動きを取り戻した選手たちは「これまで特に力を入れてきた」ディフェンスがさえ始めた。着実に得点を重ねる一方、相手の陽明はシュートミスやセーブされる場面が増した。陽明に最後まで満足の攻撃をさせなかった。

「連覇のプレッシャーもあったけど、それに負けなかったことがうれしい」と三輪はるか主将。震災の影響で全国選抜が中止になったため、全国総体は「ぶっつけ本番」の気持ちで臨む。目標の一番に向けて自信を持ってプレーができるように、一から始めていきたいと前を向いた。

ハンドボール

(沖縄市体育館)

▽男子決勝

興南 37 2116 9 18 コザ

▽女子決勝

那覇西 37 2017 9 15 陽明

興南風格 一丸V7

守り集中 後半エンジン全開



7連覇を果たした男子興南。エースの東江雄斗だけに頼るわけにはいかならぬ。自分でも決めるのが仕組まれているチーム力で王者の風格を見せつけた。

「(負傷で)自分の調子が上がらないのは分かってた。その分、周りが頑張ってくれた」と東江。積極的にボールを回し、仲間

に頼るわけにはいかならぬ。自分でも決めるのが仕組まれているチーム力で王者の風格を見せつけた。

「(負傷で)自分の調子が上がらないのは分かってた。その分、周りが頑張ってくれた」と東江。積極的にボールを回し、仲間

焦点

も守りでの集中が必要。相手のミスをつまぐ利用し、足を使ったディフェンスが

「細かいミスはあったけど八、九十パーセントの力は発揮できた」と胸を張った。

試合は「両チームとも浮き足立っていた」と黒島監督が話す序盤、守りでの集中が必要。相手のミスをつまぐ利用し、足を使ったディフェンスが

「細かいミスはあったけど八、九十パーセントの力は発揮できた」と胸を張った。

試合は「両チームとも浮き足立っていた」と黒島監督が話す序盤、守りでの集中が必要。相手のミスをつまぐ利用し、足を使ったディフェンスが

興南-コザ 前半、コザディフェンスをすり抜けシュートを決める興南の仲田圭吾
=1日、沖縄市体育館 (名嘉眞朝英撮影)

県高校総体 2011